

## ①

私達のグループ m2 班は、東京大学宇宙線研究所を訪問しました。その研究所では、宇宙線やニュートリノ、宇宙基礎物理の研究などを主に行っています。今回私達はその中のガンマ線望遠鏡グループの中嶋大輔特任助教にお話を頂くことができました。

中嶋助教授は、CTA 計画と言って、これから建設が始まる国際宇宙ガンマ線天文台 CTA での研究に携わっていく方です。そこでは、ガンマ線を使った特殊な望遠鏡を用いて、宇宙を現在の望遠鏡よりも高い感度と広い領域を見ろという試みが行われようとしています。中嶋助教授は、望遠鏡のカメラから大量のデータを取る責任者を担当しています。私はその時初めてこんなすごい方のお話を聞けるということが簡単にできることじゃないと思いました。

この企業大学訪問の1時間で私はとても多くの素晴らしい答えを聞くことができました。その中でも特に自分の考えや知りたかったこと、人生などに関係するものを紹介したいと思います。

まず、中嶋助教授が宇宙天文学という分野に入ろうとしたきっかけは、「単純に面白そうだったから」だそうです。やはり、自分の得意なもの、将来その仕事に就いた方が後に楽に過ごせるなどではなく、自分が興味を持った仕事、好きな仕事に入るのが一番だということが改めて思えることができました。自分が興味を持たない仕事に入っても、いずれモチベーションが上がらない、仕事をする事自体が苦痛など思うようになってしまっただけは人生楽しく生きていけないと思っています。趣味を作るということもできますが、それは余裕のある仕事でないと難しいことでもあります。仕事のところで楽しさを見つけていくというのがよりよい人生を送る一番よい方法の一つだと思いました。

また、中嶋助教授は4年間海外で研究をされていて、もちろん海外の研究者と沢山交流します。その中で少なからず「言葉の壁」というのは存在しています。使っている言語や文化が違うので当たり前のことでしょう。中嶋助教授は、映画などを見ることでできるだけ言葉の壁を減らす努力をしておっしゃっていました。特にアーノルド・シュワルツェネッガーさんの作品、例えば「ターミネーター」などの映画を海外研究を始めたばかりの頃はよく観ていたそうです。中嶋助教授は、「アーノルド・シュワルツェネッガーは比較的わかりやすい英語でしゃべっている。しかし、現実的でないことをしゃべるのが多いから、ドラマなども観ている。」のようなことをおっしゃっていました。この事を参考にして、私も英語力を上げる努力をしようと思いました。

そんな中嶋助教授がその世界で苦勞していることは主は二つあると聞きました。

一つは、教授の空きの競争です。大学の教授などはなるのがとても難しく、その大学のその分野に空きがないと、その大学にいる教授が抜けない限り、教授にはなれません。だから、何かしら結果を残さないといけないというのがとても大変で難しいものだと思います。

もう一つは、研究成果を出さなければいけないというプレッシャーです。上のものと重複する部分もあると思いますが、研究にはとても多くの費用がかかり、また、大学はよりよい人材を欲しがると思うので、結果を残せない人は他に移ってもらうというようなことがあるのかもしれませんが。そのような環境で結果を残さなければならぬプレッシャーは並大抵のものではないとわかりました。

これらのような過酷な実力主義の世界でも、しっかりと結果を残せる中嶋助教授やその他の学者さんは一体どのような人を目指し、尊敬しているのでしょうか。

中嶋助教授は、人種に関係なく、常に原点に立ち戻れる人はすごいとおっしゃっていました。何か問題が起きた時にその根本の基礎から見直していくことはそう簡単なことではないと思います。通常、何か間違えた時、人は今起きていることに直接関係する原因を探そうとします。しかし、基礎から見直してみると実は根本的な間違いだったことが分かることがあります。私もそれを聞いた時とても納得しました。基礎が間違えていたというのは認めたくないと思うことも多々あります。しかし、単純なところに間違いがあると素直に受け止

め、次に繋げることはとても重要なことだと思います。そのようなことができる人に私もなれるよう日々自分を磨き上げていきたいです。

今回の企業大学訪問は約 1 時間ながら、とても有意義で充実したものとなりました。この経験を無駄なものにならないよう、日々の生活で今回学んだことを活かしていきたいと思っています。

## ②

私達は、新日鐵住金(株)の本社に訪問させて頂きました。

エントランスに入ると、とても豪華で巨大な建造物であることがよく分かりました。それが今でも鮮明に憶えています。

新日鐵住金は、主にメーカーさんに素材を提供する企業です。具体的なものとしては、鉄鉱石を様々な製品の部品に加工するなどです。今回は、この会社の二高の OB を中心として、ディレクトフォースを行いました。新日鐵住金の様々な仕事を詳しく説明させて頂いたり、OB の高校時代の経験など他では聞けない貴重な話を聞かせて頂いたりしました。

OB の吉住さんから聞いた話を紹介したいと思います。

私は、海外の企業の方との交渉の際、どのようにすれば自分の要望と相手の要望をバランスよく互いに受け入れることができるのだろうか、疑問を持っていました。吉住さんは風習に合わせる事が大事だと答えました。相手は海外の方々なので、日本と風習が異なります。当然、違う環境下に置かれているので、求められる条件や要求も違ってきます。その中でどちらにもメリットになるところを探し、相手の要望の大半を満たしたところで自分の絶対に変えてはいけない必要、大切なことを受け入れさせる、というのが大事になってくると思います。だから、相手の文化、経済を学ぶのはとても重要なことでもありますし、この高校時代で学んで損することはまずないと思いました。また、英語もできるだけ知っておいた方がよいとおっしゃっていました。大抵、海外の企業との談話の時には、通訳を用いて話し合いますが、専門用語などを知っておくと、自分でも理解しながら話し合うことができるので、相手も好印象を持ちながら話し合えます。

それに加えて、私達のグループの話し合いの題として、チームワーク作りがありました。そこで私は横のつながりもとても重要になってくるものだと改めて思わされました。新日鐵住金では、様々な担当分野があって、そのつながりがなければ良い会社は作れないと思います。

例えば、広報が宣伝の為に今行っているプロジェクトについて記事を書くとする、大抵のことはわかっていますが、開発担当の方に聞かないと分からないことはあると思います。その時に、横のつながりがとても重要になってくるのではないのでしょうか。そうすれば、情報共有も簡単にできますし、どの担当分野も優秀に信用の高いものになると思っています。グループの一人が「考え方は違っても進む方向は同じ」と発言していました。まさにその通りではないかと思っています。

今回学んだものをクラスで、部活で活かしていけるのが、このディレクトフォースを意味のあるものにさせていきます。これからも様々な分野で頑張っていきたいと思っています。